

# エゴマ栽培で遊休農地解消

## PRへアクションプラン策定



【長野】遊休農地の増加が課題となっている青木村では、農業アクションプラン」を策定。遊休農地解消の実践例としてエゴマの栽培を開始した。

### 長野・青木村農業委員会

易で、野生鳥獣の被害がなく、えごま油に加工すればアスパラガスやリンゴ並みの所得が得られることが分かっている。農業委員会では、昨年11月に開催された産業祭・新そばまつりで、餅つき体験を提供し、えごま餅を振る舞うなどエゴマによる遊休農地解消をPRしている。

### お米の味、営業力競う

#### 岐阜県稲経青年部が米自慢大会



大会は、(株)ギフライスが県の委託事業を活用し、2017年から行い今年で7回目。食べ比べておいしさを競う「食味審査」、営業力を競う「プレゼン審査」、出品者が自らの米を言い当てる「MY米当て」の三つを実施。食味審査は、会員関係者が見た目・香り・食味・食感の各5点で採点し、合計点で順位を競った。また、出品者が自身の米の特長やこだわりなどを発表した。

### 農林業に就農・就業を

#### 新潟市でマッチングフェア

【新潟】県農業会議などが主催する「農林業新規就農・就業マッチングフェア」が2月22日、県庁講堂で開かれた。写真。独立就農や農業法人への就職を希望する参加者25人が人材を求めると経営体などの出展ブースを回り、仕事の内容や雇用条件などを聞いて相談した。出展経営体には過去のフェアで就職した社員も語った。

### 京都市農業委員 樹下ちえ子さん

【京都】1〜2月に旬を迎える京都の伝統野菜「畑菜」の魅力を知り、おいしさを体感できるワークショップが2月7日、京都市伏見区役所で開かれた。

## 小学生にお米の特別授業

### 石川・加賀市 児童「農家応援したくなった」



特別授業で話す山田さん 職員は「特別栽培米の『加賀ほまれ』は、加賀市で生産される米の1%程度。まだ認知度も低く、生産者を応援するためにたくさん食べてほしい」と話した。

### 「米価高騰に踊らない」

#### 兵庫県稲作経営者会議が研究会

【兵庫】県稲作経営者会議(高本知宜会長)は2月28日、神戸市で研究会を開いた。

### 愛知・安城市 「日本デンマーク」と呼ばれて100年

#### 記念ロゴ完成

【愛知】安城市を中心とした碧海地域は、世界的な農業先進国だったデンマークになぞらえ、「日本デンマーク」と呼ばれて100年。安城市はこのほど、100年を記念したロゴマークを制作した。

## ワークショップで特産「畑菜」の魅力紹介



実演で畑菜を茹でるコツを解説する樹下委員(中央)

畑菜の生産者で農業委員の樹下ちえ子さんが講演して農家の栽培方法やお薦めの調理法を解説した。初年(今年2月6日)に畑菜を食べる風習なども紹介した。

## 住民参加型農業を実証

### 和歌山・日高町農業委員会

#### 従事対価は米で分配

【和歌山】日高町農業委員会(野田秀樹会長)はこのほど、小浦地区住民約30人と協力し、生産者と連携した米作りを行う「住民参加型農業」の実証試験を開始した。



緑肥の種をまく地域住民(昨年7月) 同試験に参加する農業法人で「一般社団法人アッセンブル日高」を率いる白井雄大代表理事は「規模を拡大するほど管理が大変になる。地元との協力を受けて、同地区での栽培面積を10畝まで増やしたい」と取り組みに期待を寄せる。



安城市を代表する米(稲)、イチジク、梨をモチーフにしたロゴマーク

## 中日本版

## 各地の話題